

2009年5月1日

## ボストン・サイエンティフィック、患者の負担軽減した植え込み型除細動器

ボストン・サイエンティフィックジャパン(東京・新宿)は心疾患用の植え込み型除細動器(ICD)の新製品「コンフィエント」を4月30日に発売した。2006年に米本社が心疾患治療機器メーカーの米ガイダントを買収して以来、ICDはガイダントのブランドで販売しており、ボストンブランドの製品発売は初めて。患者の心臓にかかる負担を既存製品より軽減したという。

新製品は体内に埋め込んで使う。心拍を監視し、心室細動など死につながる不整脈を検出すると電気ショックを与えて正常な拍動に戻し、突然死を防ぐ。不必要な電流を与えると心臓に過度の負担がかかるため、心拍が乱れていても一定の間隔までは電流を与えないよう、患者の症状に合わせて装置の働きをプログラムする仕組みを設けた。

＝日経産業新聞＝